令和３年度　第１回上川町総合教育会議　議事録

１　日　時　　令和２年１２月１７日（火）

２　場　所　　上川町役場 中会議室

３　出席者

上川町	町　　長	佐　藤　芳　治
上川町教育委員会	教　育　長	中　野　俊　和
	教育委員	安　藤　智　昭
	教育委員	桜　田　紀　子
	教育委員	菊　地　由紀子
	教育委員	谷　越　一　仁
事務局	企画総務課長	西　木　光　英
	課長補佐	片　岡　　仁
	係　　長	笠　本　瑞　貴
	教育次長	藤　井　吉　光
	次長補佐	熊　谷　奈　美
	係　　長	今　井　美　起

４　議事録署名委員の指名について
　安藤委員、谷越委員

５　協議事項
（１）「上川小学校・中学校の学校運営状況の中間評価」について
（２）その他

６　議事経過の内容　　別紙のとおり

	第１回　上川町総合教育会議　議事録
西木課長	皆さん、どうもお疲れ様でございます。 それでは、定刻となりましたので、ただ今から「令和３年度 第１回上川町総合教育会議」を開催させていただきます。 本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。 本日の司会進行を務めさせていただきます西木でございます。よろしくお願いいたします。 それでは、次第の３番目につきまして、町長あいさつということで、町長からよろしくお願いします。
町　長	はい。 本日は、どうもご苦労様でございます。 コロナの影響で、総合教育会議は、少し延び延びになってしまいまして、ようやく今日、こうして開催することが出来ました。ご出席いただきましてありがとうございます。 特に、議題としては、今までとちょっと内容が変わりましした。 今日は、特に教育関係で対応している課題として、上川高校の問題があるわけでして、これが、来年の入学者の状況によっては、その後の高校生活が決まってしまうと言うか、いろんな対応をしなければならないわけですが、その辺は後で教育長から、もしかしたら高校と現段階における内容の説明があるのかもしれませんが、その事も合わせて、今非常に、行政、あるいは教育委員会そして学校現場を交えた上川高校の問題が深刻化する中で、まず、本来の高校等の魅力をどう高めるかっていうのが非常に大きな課題でありまして、来年以降の状況がどうなろうが、本当に上川高校をもっともっと皆さん方に関心を持ってもらえる、そういう学校にするためにどうしようかという、たいへん幅広い、アンケート調査なども実施したり、生徒も交えたような取組みが、プロジェクトチームの方で、実はこの間、ずっとやられてきています。本当に皆さん方真剣になって、このプロジェクトに対する意見をいただいたりして、そういう内容について、今日、総合教育会議のテーマとしてますけれども、また皆さんとともに、共有をさせていただき、そして、いろいろご意見もいただきながら、今後の高校を守るために、是非活かしていきたいと考えておりますので、どうぞ忌憚のないご意見をいろいろいただきたいと思いますし、このプロジェクトの中でいろいろ交わされた意見に対しても、質問等々お聞きをしながら進めたいと、そのように思っておりますので、今日はよろしくお願いしたいと思います。
西木課長	それでは、４番目の議事録署名委員の指名については、町長の方からお願いします。
町　長	はい、分かりました。 それでは、議事署名の指名でありますが、今回は、安藤委員と谷越委員でお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 早速、協議事項に入ってまいりますが、今申し上げましたように、上川高等学校の魅力活性化プロジェクト「かみってる」について、担当の方から説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。
池　端	皆さんお疲れ様です。

	今回の上川高校の関係で説明させていただきます、上川町役場の企画総務課企画グループ係長の池端と申します。よろしくお願いいたします。 まず、協議事項に入る前に、正面スクリーンに１本の動画を用意してますので、そちらの方ご覧いただきたいと思います。よろしくお願いします。 （以下、動画のセリフです） 上川高校にかよっている３年生です。 自然が本当に豊かで、やっぱり、アウトドアができる町なので、そういう人たちにとっては、やはりとても良い町なんじゃないかなと思います。 自転車の授業は、毎週金曜日に上川町内を走ったり、上川町の魅力などを教えてもらいながら楽しく走っています。今年は６人でやっていて、自然と触れられたり、体力を付けられたり、町民の方々と会って話をしたり、とてもユニークな活動で良いと思っています。 走っている最中は、やっぱり紅葉とか夏に観る花だったり、そういうところの景色を見ていて飽きないんですよね。その飽きない中で、風が吹いたりして、気持ち良くこいでいるのがとても印象に残っています。 今、紅葉がとてもきれいに見えていて、そういうところをしっかり目に焼き付けて、仲間といい汗かいて、終わった時に「良かったね」と言えるようになっていきたいと思っています。 やっぱり、マウンテンバイクとかの授業は、そういう活動の中で、自然により触れられるっていう機会が多く、生徒もそういう所が楽しいという声もあるので、やはり、そういう自然が持っている力というのは、生徒たちに伝わっていて、とても良いと思っています。 （動画終了） はい。今、冒頭に、この上川高校のＣＭを見させていただいたのですけども、まずこちらを何故見ていただいたかということだったのですけれども、すごく良い表情だと思いませんか。 私自身も、ＣＭを見させていただいて、すごく高校生の生の姿というか、声がですね、すごく良い表情や良い声が映し出されているのが、改めて皆さんご覧になった方も多いと思いますけれども、見ていただきたいと思いまして、冒頭でＣＭの方、紹介をさせいただきました。 まず、上川高校の魅力プロジェクトの若干説明したいと思うのですが、昨年度、令和２年度の３月に上川高校魅力向上推進協議会というのを立ち上げまして、そこから、上川高校の魅力プロジェクトということで、様々な取組みを行ってきております。 今回、別紙で右上に【報告事項】と記載させていただいた資料を別紙でお配りしています。 協議事項に入る前に、まず、その間の取組みということで若干報告をさせていただきたいと思います。 上川高校魅力向上プロジェクト関連会議等開催状況ということで、まず、①番目、上川高校魅力向上推進協議会ということで、今年度 10 月に１回協議会を開催してきております。 それ以降は協議会ではなのですけれども、②番目の職員プロジェクト会議、③番目の地域プロジェクト会議ということで、職員と地域からそれぞれメンバーを選出いたしまして、上川高校どういうパターンでもっていくのかが魅力化につながるか、出来る事を実践してから上川高校にぶつける事ができないか、そういう事を中心として話し合いを進めてきております。

	さらには、④番目と⑤番目ということで、それぞれ上川高校の先生との意見交換会、上川高校と打合わせということで、④番目の上川高校の先生方との意見交換会につきましては、ざっくばらんに、どういった事を上川高校でやれば、足りない事があるのか、どういったことで魅力をもっているのかということを私たち職員と上川高校の先生で話し合うことを進めてきております。 さらに、⑤番目の上川高校と打ち合わせというのは、オンラインの授業を海外研修だとか、タブレット端末の貸与というかたちで、今まで海外研修につきましては、上川高校で２名でしたけれども、来年度につきましては、是非、その拡大・拡充を図った上で、よりグローバルな高校を目指せるように、海外研修についても協議を進めてきております。 さらに、⑥番目上川高校の授業、⑦番目の上川中学校の授業というのは、実際に生徒と係わる中で、授業の方も行ってきております。上川高校の授業を申し上げますと、こちら「かみ高どうでしょう」「しくじり先輩」ということで、こちらの上川町役場の職員を含みます地域おこし協力隊が中心となりまして、実際に上川高校の方に伺いまして、「しくじり先生」というテレビ番組があるのですけども、その「しくじり先生」の「先輩」バージョンということで、地域おこし協力隊も私たち職員の失敗談を実際に話すことによって、生徒たちと共有化してきております。 さらに、もしかしたらご覧になった方いらっしゃるかもしれないのですけれども、ＪＲの「人めぐり号」という周遊列車が 10 月に運行したのですが、こちらに実際に上川高校生が乗車をして、上川町のふるさと納税返礼品の「はちみつ」をＪＲの車内で物販を行ってきております。こちらですね、正直何個売れるか自信なかったので、20 個だけ用意してたら、あっというまに売れて、実は車両１か所しか行かなかったということで、もっと多くできたのかなと、それこそ「しくじり先輩」のせいだなと、しくじってしまったのかなと考えております。 さらに、そういったかたちで実際に生徒たちが地域のこういった特産品をＰＲしたことで、実際にＪＲに乗ることによって、地域の人たちにいろんな部分で上川高校がこういう事をしているよ、ということを見せる良いきっかけにもなったと考えております。資料に載せた右下の道新の 10 月 21 日の新聞に掲載されております。 その他、⑦の上川中学校の授業の内容につきましては、当然ですね、上川中学生が来年度以降の高校の入学希望等を考えた際に、中学生に響く上川高校の魅力を伝えたいということで、役場職員等が中学校に実際にお邪魔して授業を行ってきております。高校の行事等について説明してきております。 裏の方を見て下さい。 地域の魅力おこし関係者の集まりであります「ケアコタンの交流」ということで、こちら７月に行われたケアコタンなのですけど、この中ではまさに「上川高校の魅力化について」というテーマで、話合いが行われました。このオンラインの導入の中にも実際に上川高校の先生も４人参加していただいて、テーマを決めて交流を図ってきております。 さらに、⑨番目の「隠岐島前高校ＷＥＢ研修」ということで、こちらは役場企画グループの３名が受講しているかたちとなっておりますが、今、全国各地でＷＥＢ化ということで行われているのですが、魅力化の先進地と言われているのが島根県の島前高校です。この島根県の島前高校のこういった取組みを参考にさせてもらいながら、研修をさせていただいております。 さらに、ニュース等で取り上げられております⑩番目の「小樽商科大学調印式」、⑪番目の「インフィニティ調印式」ということで、それぞれ連携協定ということで結

	ばさせていただきました。 小樽商科大学でいきますと、大学生・高校等が小樽商科大学に通えるというところを目的に協定を結んでおりますし、インフィニティにおきましては、層雲峡の方で中等学校を開校するということで、開校した際には、是非、上川町の教育機関との連携を図りたいということで、まだ具体的な絵というのは描かれていないのですけれども、高校との連携をしながら、学校・教育に携わっていくかなと考えております。 さらに、⑫番目「視察・研修関係」ということで、音威子府高校と剣淵高校、いずれも町村立の高校なのですけれども、視察をさせていただいたり、あと大空町ですね、町村立学校の協議会を、今回、町村立の高校だけが参加できない協議会に特別枠というかたちでの参加に協力していただいて、こういった町村立の高校の実態を学習をしてきてございます。 最後ですが、⑬番目「その他」ということで、いろいろ記載させていただきましたが、上高ＰＲのポスター・パンフレット作成、配布から、ＳＮＳの発信ということで、情報発信を中心に、この間、誘致・取組みの方を進めてきているという事をご報告させていただきます。 早速ですが、次第の協議事項に入ってまいりたいと思います。 （１）番目、『上川高等学校魅力活性化プロジェクト「かみってる」について』ということで、参考資料のほうですが、こちらの１ページ目をお開き下さい。 最初に、もし地域に高校がなくなったら…ということで、 ２スライド目です。 地域における高校の役割ということで、まず、魅力化を実践している高校ということで、実際高校のある自治体としましては、人口の増加であるとか、経済的な消費増加、こういうことで地域の豊かさにつながっていくということが、データとして表れております。逆に高校が無くなってしまった場合ということで、こちらにつきましては、こちらに記載されているとおり、６年間で１％相当の転出ということで人口減少につながったりだとか、消費が失われるだとか、そういった意味での地域の衰退につながるマイナス効果というのが見てとれると思います。 ３ページ目見て下さい。 上川高校の現状です。既に委員の皆様、もしかしたら共有している内容もあるかもしれませんが、改めてご説明させていただきます。 先ほど、町長の冒頭のあいさつにもございましたが、現在、来年度の入学者の数によっては閉校になるという事態になっております。明確に申し上げますと、こちら②番目に記載してます、３年間 20 人を下回った場合については、３年後の令和７年に募集停止になってしまうという危険性があります。 今の状況でいいますと、令和２年度につきましては 17 人、令和３年度におきましては 14 人、来年度どうなるかという状況となっております。 ただし、ということで、一応②番目に書いておりますが、地元の中学生から、すみません 45％と書いているのですけれども 50％に直して下さい。地元中学校の生徒が 50％いけば「地域連携特例校」という扱いで、仮に 20 人切ったとしても地元から多くの方が上川高校に進学したという事が認められて、閉校の対象ではないという道もあるということが書かれております。ちなみに、現在の中学校３年生の生徒数が 19 人です。ですので、こちら 50％以上は 10 人以上の人数が必要になっております。 続いて、スライドの４番見て下さい。 今の上川高校の生徒の現状ということで、こちらなのですが、６月にアンケートを

	試験的に実施させていただきました。このアンケート結果の説明をしていきたいと思います。 まず、なぜ上川高校を選んだのですか、という問いについては、１番が「学力が合っている」が 19%、続いて「上川町からの支援」が 16%となっております。こういった学力が１番の選択の理由というのが、当然、子ども目線という理由なのかなと受け取れると思います。 さらに、上川町の支援が２番目というのは、支援というのは、おそらく保護者目線の要素が強いのではないかなとこちらの方では解釈しております。 この上位２つから言えることは、子どもと保護者それぞれに対してのアプローチが必要ではないかと考えております。 続いて５ページ目。 一方、逆に上川高校を選んだ理由で「選ばれなかった項目」ということで、以下３例上げられております。やりたい部活があるから上川高校に来ている訳ではなく、希望職業に役立つ知識や技術が身に付くから上川高校に来ている訳ではなく、校舎や施設・設備がすばらしい上川高校に来ている訳ではない。いずれも、上川高校を選んだ理由として選ばれなかったということで、こちら３点ほどが選ばれております。こういったマイナス点についてよりプラスになれば、こちらの方が改善できれば、魅力化にもつながっていくのではないかと考えております。 一方、選んだ理由から離れまして、今の生徒の状況ということで、部活動とアルバイトの状況についてもお聞きしております。今、部活動に加入しているのは全体の 30%、バイトしている生徒が約 45%ということで、部活よりもバイトをやる生徒の方が選ばれています。通学者のほとんどの方が旭川近郊であることを考えれば、上川時間が少ないことの要因であると考えています。 続いて７番目お開き下さい。 次に、自由記述ということで、今回生徒が「上川高校にほしいもの」ということでお聞きしております。 部活でいうと、エアライフル部・水泳部・バレー部ということで、いずれも、今後、今はない部活をやっていきたいという声がございました。 また飲食でいうと、自動販売機ということで、既に上川高校の方１台あるのですけれども、さらに増設してほしいということでした。また、購買を設置してほしいという内容でございました。 あと環境面でいうと、実はこの回答が一番多かったのかもしれないですけども、トイレ改修をしてくれませんか、という声が非常に多かったです。実際のトイレなのですが、男子トイレ・女子トイレとも仕切りが無くて、丸見えだという生徒の大半の意見だということで、実際私も見に行ったのですけども、丸見えということはないですけれども確かに見渡せるような感じにはなっているのです。これもあくまでも担当者レベルであれなのですけど、何かしら仕切りとか、それこそ簾のようなそういったものがあればということで、上高の先生の方には説明はしています。さらに、個人ロッカー・休憩室を作るとか Wi-Fi 設置とか、そういったところの環境面としては上げております。 また行事・イベントでいいますと、こちらも高校の生徒から多かったのが、地域の人と交流をしたいということで、けっこう上川高校の生徒だけでなくて、地域を交えたいろんな各種業者がやってみたい、という声が複数回答としてありました。 また学習面でいいますと、動物に関する検定だとか様々な検定の紹介、あとパソコンを新しくしてほしいといった要望がございました。

	その他として、服装を自由にしてほしいというご意見もありましたが、こちら、服装を自由にという意味で、上川高校で実際に７月に「服装自由月間」というものを実施しておりまして、実際その服装自由月間をしない生徒と記入した生徒の差があるのかなと感じております。６月にやったアンケートということになりますので、実際にはこういった限られた中ではあるのですけれども、こういった「服装自由月間」というのも実施しているということを説明したいと思います。 以上で、こういった、今聞いていただいたアンケート調査結果をまとめまして、「上川高校の魅力化を図るには」ということで、まず、上川高校に生徒が来てもらうには…、生徒が上川高校に来たいと思わせる環境と土壌が必要である。それは、先ほど説明した上川高校を選んでいる理由・上川高校が選ばれていない理由、そして上川高校の生徒がやっていること。こういうところに着目して、すぐに既存でやっている事業をさらに良くすることや、新規支援の開拓に対して創意工夫をすることによって、魅力化というのが図れるのではないかというふうに結論を求めました。 続けていきます。 「上川高校の課題」です。今回、上川高校の課題なのですけれども、こちら資料の方をご覧いただいてください。 まず、高校のやっていることが町民に向け、有効に発信されていないということで、先ほど、職員プロジェクト・地域懇談会ということで、それぞれメンバーを選出して協議を進めているということでありますが、そういったところで意見が多く上げられる例として、なかなか町民だとか周りの声として、上高生が良いイメージで見られていないということが分かってまいりました。 ただ実際に、こちら見ていただくと地域のために実践している事というのは、けっこう多くの事を地域のためにやっていると思います。例えば、マイカー規制の際のネイチャーガイドだったり、あとふるさと祭りのお手伝い、あと冬の除雪ボランティア活動ということで、地域のためにすごくいろんな活動をしています。 ただ、一方で、この見られ方・伝わり方というところと、登校時の印象が良くないという声だとか、悪いイメージが増長されて発信されてしまう。伝わり方という意味では、なぜか良いことが伝わらなくて悪いことばかりが伝わってしまう実態にあります。 続いて、今度右の方を見ていただきたいのですが、卒業後の出先が見えづらいということで、こちら学習環境・キャリア教育で出先が見えづらいということが分かってきました。学習環境を例にしますと、ルールが曖昧だとか、教室の環境が良くない、進路実現に向けた学習支援が不十分ということで、どういったことを言っているかといいますと、教室の環境が良くないというふうには、こちら一部の生徒だと思うのですけれども、騒がしかったりする子がいたりだとか、あと携帯が、皆さん生徒さんも持っているのですけれども、そちらが使って良い状態と使っては駄目な状態との使い分けが上手くできてないということです。そういった所の線引きがすごく難しいという実態も申し上げておきました。 さらに、別な面から見ますと、キャリア教育ですね。上川高校の方ではインターンシップということで、各職場に２日間インターンシップの時間が設けられています。ただ、２日間というのが短いのではないかというところも言われております。その短いところで、グローバル、人との関わりが少なくなっている、企業との関わりが少ないというのが、そういったことにつながっているのかなと感じております。 こういった情報発信の出先、卒業後の進路と出先、こういったところの可視化、「将来への可視化」を図ることで、魅力化というのが考えられるのかなと感じております。

	こういった課題というものも、可視化をすることによって、高校のこういったところを高校に対してのアピールとして行えないかということで、10ページです。 コンセプトということで、こちらの図なのですけれども、まず、上川町で学んでもらいたい、上川町の中で遊ぶと表現させていただいたのですけれども、ワクワクする事、そういった事を上川町内でやってもらえて、そして結果的に上川高校生が育つ環境というものを作っていって、最終的には、「地域に可愛がられる高校生」そういったことができたら、先ほど申し上げた「情報発信の可視化」だとか「将来への可視化」につながってくるのではないかと考えております。 その詳細は、次のページです。 １本の木に例えているのですけれども、こちら、真ん中の下の方に上川町という土壌になっています。上川町という土壌がありまして、そこから生徒に見立てた木というのが、学ぶ要素、遊ぶ要素、いろんな要素がありまして、育っていくんだよ、というのを表わしています。こういったところを、いろんな事と上川町を通じて活性化につなげていくのが、先ほど言った地域の関わりのある高校生というのを育てるのかなと考えた具体的な図となっております。 これをさらに、12ページ目になります。 「上川高校だからできすること」です。今後、こういったことができるのではないかということで、示させていただきました。 まず、上川町の特徴ということで、一番の特徴というのは、上川町は「水」の町と言われています。水というのが最大の特徴ではないかと考えました。こちら、その水を図で捉えた場合に、この図の方を見ていただきたいのですけども、日本一ラーメンの会を発足したのも、日本一おいしい水で作られるラーメンだから日本一ラーメンだと言われていることだとか、あと、層雲峡温泉・高原温泉・愛山渓温泉の３つの温泉も水が良いということ。さらに、上川大雪酒造がこの町に来たのも水が良いからこの町に来て、まちづくりに寄与していただいているのかなと考えております。 この水のことを支えているのは、ということで、「風土」と呼ばれる方々がこういった水のことを教えていったらどうだろうか、というふうになっております。 一般的に風土という言葉を使う時なのですけれども、「風」という方々が、基本的には地域外の方々達です。 一方で、「土」というのは、地域、上川町内にいる方々を指して広く使われるのですけども、ここに私たち、ちょっとこだわり持ちたいなと思っているのが、上川小学校・中学校・高校は土の所に属してるのですけれども、一般的に教員については風土でいえば、こういう方々は風っていうふうに思うのですけど、ただ、風じゃないと、教員の方々もこの上川町にいる間は「土」になってもらいたいと考えております。 「風土」。地域の人も地域の外にいる方々もみんなが上川町内に結ぶことについて、そういう事ができたら良いなというかたちで考えております。 続いて13ページでございます。また同じ資料でございます。 「風土水カリキュラム」といってやっている具体的なプロジェクトということで、今考えていることが、４つのプロジェクトを考えております。 まず、一つ目に「かみゼミ」ということで、現在、探求活動ということで、いろんな地域において自分たちで地域の課題を見つけてきて、地域の課題を学ぶという、探求活動というのが今の教育の主体的になる実践スタイルとなっております。地域課題の解決による探求活動の時間を増やしていくだとか、地域クラブ活動でいいますと部活動、先ほども、やっている生徒が少ない、部活をやっている生徒が少ないという実態というのが、実は上川高校の部活動自体が少ないのです。ただ、ある生徒が言って

	いたのですけれども、「僕、実は吹奏楽やりたいんですよ。先生も来ないから出来ないんです。」といった声だとか、あと、「バレーやりたいんです。」とか、そういった声とかも実際に上がっているので、例えば、上川町内にあるクラブや団体、そういった所をクラブ活動化して、そこに混ざってもらうということができないかなという事をいま検討しております。 続いて②番目の「かみキャリ」でいいますと、先ほど、インターンシップの時間が短いということで、インターンシップの時間を長くするということで、リアルインターンシップの研修だとか、リアル社会人体験ということで、私自身もそうだったのですけれども、高校・大学卒業した後にすぐ就職しても知らない事が多くて、例えば、名刺の出し方もそうですし、お酒の場でしたらお酒の継ぎ方もそうですし、そういったちょっとした礼節マナーというものを本当に直に学んでもらう、そんな仕組みがあったら実際に就職した後も、そうした事を学んできた上での就職・社会人１年目ということでやっていけるのかなとか考えております。 今度③番目、「かみコミュ」のことをいいますと、先ほど言った海外研修等の支援をしていきたいという内容だとか、あと、現在、ギガスクールの関係もありまして、そういうところでグローバル授業のＩＣＴを育てたグローバル交流というものも図っていけないかなということも考えております。 ④番目ですけれども、「かみサポ」ということで、こちらは学習支援です。今、高校生でもなかなか学校を離れた所の勉強をしているというのが無いということで、そういうところを学習支援という中で、習熟度別学習だとか、進路別サポート学習、そういったことを学校内だけではなくて学校外でもできる、そういう仕組みを考えていければと考えております。 この図に書かれているそういったものを、上高サポーターという、上高サポーターは実際にはまだありません。無いのですけれども、今、実際にこのプロジェクトを進めていくに当たって、多くの団体や法人なのですけれども、応援したいという方々が現れております。そういった方々を上高サポーターという形で組織化して、サポーターの方々が先ほど説明した「風土」というかたちで、このプロジェクトの支援をしていただけないかと考えております。 それでは、具体的な説明は、一番最後のスライドになります。 14 ページ目ということで、上川高校と地域を掛け合わせて上川高校でこの４つの支援を実施していくことによって、異年齢と接する時間を確保したり、社会と接する時間を確保したり、異文化と接する時間を長くしたり、将来の自分と接する時間を長くするということで、今まで実践でこだわったことを地域の方々が協力して、生徒にとって実践とつなげていく、そういった画を描いています。 以上、説明が雑駁で申し訳なかったのですけれども、私からの説明を終わります。
町　長	非常に皆さん方、広範囲にわたり難しい面もあるのですが、あえて言いますけれども、皆様方感じたことやあるいは疑問に持ったことでもいいですし、意見をだしていただき参考にさせてもらうというようにしたいと思っています。それにしても、今の上川高校、そして、来年度非常に厳しい状況にあります。その辺の現状、少し分かった段階でこの議論やった方がいいかなと。そこがなければ、まさに空論議論になってしまいますので、そういう意味で、教育長ちょっと、上川高校の現状と来年に向けての動きというか、現段階における状況を補足してもらえますか。
教育長	はい。分かりました。

	実は、この間、12 月 2 日教育委員会に行ってきました。その時に、インフィニティのお話をさせていただいたので、重複するかもしれませんが。 今、現状、町長からご挨拶ありましたとおり、上川高校たいへん危機的な状況にありまして、来年度の入学生の数によっては募集停止なるという内容です。 去年の秋ぐらいに今年の入学生が資料にあったとおり、14 名ですね。こちらについて、２年度は 17 名。こうなった影響というのは、この間、皆さんもお話をしてご存じだと思いますけれども、なんといっても私立高校の授業料が実質無償化になったということが大きく影響しているのかなと私どもとしては感じておりまして、どうしても旭川市内の生徒におかれては、汽車通で１時間かけて学校に行くというよりも、逆に近い私立学校に行く。経済的にも授業料実質無償化になると、さほど変わらない。入学金と若干学校の利益とかそういったものはかかってくる、若干公立よりはかかるとは思いますけども、経済的には相当、負担が軽くなっていくという状況で、このようなことになっているのかと考えます。それと合わせて、生徒数が少ないということですね。それが大きな点となっております。 それで来年度、入学の現時点の状況なのですけれども、だいたい中学３年生 19 人です。そのうち 11 月中旬に三者面談がありまして、10 人上川高校に、現在の時点ですけど、希望しています。まだ期間ありますから、この後、変更があるかもしれません。それと合わせて、ちょっと別情報なのですけども、当麻中学校で４人、愛別中学校から２人ということで、今、来るという情報が流れていることと、上川高校の堀尾校長先生からの情報ですと、12 月 10 日から願書を配布しますので、その前段の旭川市内の中学校から願書の請求枚数が市内だけで 27 枚ということで、そのうち、大口が永山中学校が 10 人です、あと永山南中学校が５人で、あと、その他についてはまずは少ないけど 27 枚ということで、こちらについては、例年の状況からみるとだいたいこの内の５分の１か、６分の１、ですから、たいだい４人か５人位が入学するという、まあこれは何とも言えません。その年によっては十分変わりますから。そんな状況ですので、もしかしたら 20 名達成する可能性はあるかなということで考えております。 以上で現状説明を終わります。
町　長	はい。ありがとうございました。 今、説明があったように、１つの基準となってる 20 人ということが、課題です。ここをなんとかしたらというのが、今、説明あったように、地域連携特例校になったとしても 20 人は維持をしない状況が続くとすれば、これはもう、今の道教委あるいは財政局なんていうのは、いつまでそういう状況を続けられるのかという不安要素を抱えているという、そういう状況です。来年の入学、今、教育長からあったように、ひょっとしたら 20 人超えるかもしれないと。この間予想した以上にひょっとしたら 20 人超えるかもしれない。そんな状況もあります。ただ、それがどこまで続くかというのは、残念ながら上川小学校の生徒も現状の数考えたら、難しいと言わざるを得ないのです。 従って、来年の状況を見ながら、道教委に従わなければならないというスタイルですけど、地域連携特例校という来年可能性があるという、その時点で一定の判断というものを迫られるかもしれない。そこはまた、その時に会議なり関係者の皆さんと相談をして決めていくことになるのだと思いますが、今、そういう状況にあるということを、是非、委員会で共有したいと思います。 その上で、なんとか、魅力化向上というのが、本当にたいへんな取組みをこの会議

	を通じてやってきている訳でして、それを今後どう活かすか、こういうデータは今までも掴んだことほとんど無いですから、だいたい現状が良くなればいけるのかなというふうに思っていまして。前にもちょっとお話したかもしれませんが、仮に今年度において、最悪の事態を迎えることになる、つまりは上川高校が無くなってしまうという、道立でやること自体が不可能だという状況。全く無い訳ではないです。そういう事もあり得るでしょう、この状況だったら。その時には、私は個人的には、町立高校という形であっても残そう、残したいと思います。高校が有る無いで随分違いますし、町立でやるというのは、いろいろな自由・再編がきくというそういう一面もありますし、財政状況もありますけど、そういう事も含んでこういう議論の会を現高校に対してどういう対応するべきか、そういういろんな議論をぜひ進めていきたいと。なにせ今は、道立高校だということでありますから、道の中の、その中でやりますから、ただ、できればこのまま道立高校でいきたいので、今後も維持・運営できれば一番良いなということは同じように思っていますので、そういったことを前置きとして、同感の部分もいいですし、疑問でもいいですし、あるいは意見もいいですし、ざっくばらんに委員の皆さんにおいてご意見・ご質問されながら、意見交換させてもらえればなと思います。 ここで、決定をしてとか、そういう趣旨ではないと思っていますので、自由に自分の方は何でも構いませんので、ご意見いただければなと思っています。ざっくばらんによろしくお願いします。
谷越委員	私からよろしいですか。 どうぞ、どうぞ。 先ほど説明あった、５ページの中でアンケート調査での現状ということで、希望職業に役立つ知識や技術が身に付くということで、将来自分がやりたい職業や趣味、そういった傾向というのは、どういった状況でしょうか。教えてください。
池端	就職進路については資料がないのですが、今、直近でいきますと多種多様で、観光業でもそうですし、自動車関連だったり専門学校行ったりだとか、というのがみてとれる。
谷越委員	専門性とかではなくとりあえずいろいろな職業の経験をして進路を定めていく猶予期間が必要だと感じている。
池端	けっこう、入ってきて目標を見つけられてない生徒がいるという現状もあり猶予期間が大切です。だから、職業体験をして次のステージに行くっていうのは、散見されるのかなと感じております。
谷越委員	その猶予期間の中で、先ほどの様々な会議の話にも出たのだけど、職業体験やマナー講習等で、勉強して、そこでの交流などを発信することが魅力化につながる。 まさに、そうなれば良いなということで、一応、描いていることは、描いている。 あとは、形だと思うのですよね。 けっこう、冊子というのも、重要なのではないか、発信として。それで、何年か経って、卒業生が帰ってきてそういう要素が入ってきて、「しくじり先輩」の話を聞い

	たり、中高一貫教育の発表会もありますので、そういうところで中学校の生徒たちに、発信する。そのことがあったから今の生徒たちが、そういったところをプラスの方にもっていくという、今のお話を聞いて、理想だなと思って、実現したらすごいなと思って。ぜひ頑張ってください。
安藤委員	高校生なので、基本は上川高校の魅力の前に、しっかり本当に学習をできれば、そんな環境を作っていくことが一番大切だと思うのですけれども、毎日の出来事、ＳＮＳ書き込みに退屈な授業だったのが、それが充実していく、そんなような事の応援をしていくというのが基本的なことだと思いますけど、これから、発信よりもまず一日の生活を充実させる授業というか、そういうものを充実させていくということで、いわゆる、幼稚園やっていると子ども達の事ばかり考えてるのです。外への発信なんて頭に浮かばない。子ども達の事で精いっぱいなので、こう一生懸命見張っていて、まず、そこが基本だと思いますけれども、次、できるとしたら、授業の流れがそのまま発信に繋がるような、そんなような事ができたらなと思います。例えば、今、ユーチューブがありますので、英語の勉強に海外に向けて英語を発信していくとか、その辺のところで、学びながらそれを表現する方法として英語を学ぶという、そういうような、授業で学ぶというようなことが良いと思いますし、今年サークルで実は私、部活動やっていたんですけれども、授業が無いということで、体力的な事もありますし授業からはちょっと逸脱してますが、実施していけるようなそういう上川町であってほしいと思いますけども、コロンビアのＣＭから全部セリフをまとめて、なれを何かまちづくりに。イメージ、イメージですよ。そこをきりとって出すという。また、日頃の取組みは本当に賢明に毎日毎日のことなので難しいとは思うのですけど、ある程度イメージづくりのためにぽんぽんと出していくということもできますけど、基本は学習だと思います。そこで、一つは、例えば町民を巻き込んだイベントみたいなのを公表していくとか、協力してもらってやるということですけれども、個人的には「逃走中指名手配」みたいな、高校生がハンターになって小中学生が、小学生にはできないかもしれないが、そしたらちょっと町をその辺ストップして入れなくするような。まあ、、それよりも、もっと何か楽しい、キャンプとかね、小学校のキャンプとか、よく公文の方が企画してくれたりしてますけど、そういうようなある程度町民を巻き込んだイベントみたいなことをやることで上川高校の様子を知れると思います。 また、イベントも本当に学習につながるようなイベントができたら作っても良いと思うのですよね。本当に、ユーチューブもそうですけれども、例えば、高校生と中学生の英単語の千個を超える大会だとか、ちょっと今思いつかないですけど、そういうような。あるいは、学習に対して何か取組んでるよと、この点ある程度、アピールしてるところがないと、意外と表面の所がアピールできても、意外とちゃんと中高生は見てるので、嫌がられるので、その辺のところ上手く結びつけたらいいかなと思います。 今の意見に対して、何かありますか、教育長。
教育長	いいえ、特にありません。もう、多くの気持ちをうけおって、町の一丁目一番地学習が大事だと考えております。 上川高校今、ご承知のとおり、いろんな事情を抱えてますので、個々に教育という、そういったところなかなか難しい面もあるということは言っておりますから、先生方もご苦労されているところではありますけれども、それを乗り越えていける、先生自

	身がこういうふうに取組んでいる、先生の方の魅力も、「こんなに先生頑張ってるんだ」というところを地域の人に発信していけば、魅力も変わっていくし、子ども達も学習に一生懸命取り組まれていくという思います。あと「逃走中」という、そういったイベントも面白い。
町　長	高校と高校生と地域の住民というか、ここの距離感というのは非常に、なかなか縮まらないという、こういう現状となってますので。だから、委員の安藤さんからありましたけれども、例えばイベントなんかを通じて、もっともっと高校生が自分たちが企画しても良いし、あるいは、町民側から企画しても良いから、例えば、今やってるような「農民感謝祭」だとか「ふるさと祭り」だとか、そこと高校生がどれだけ密接な関係を持っているかというと、やっぱり、別なのですね。何回か一緒にやれないかと、高校生が地元を知る、地元の人が上川高校を知るという意味では、そういう事って必要なんじゃないか。何回か言ってきたわけですけれども、なかなかやっぱりならないですね。高校の方はきっと、やれるのならやりたいときあると思うのだけど、意外とそれなりの都合が良いところ、朝行ってはなかなか難しだとかいうことがありました。そことの距離を縮めていくということが、皆さんが上川高校の状況を知り、上川高校生が地域を知り、それが結局、生徒は減らない、地域に根付いていくという、さっきもありましたけれども、非常に、そういうところへの時間というのは、わずかであって、なかなか地域への癒着性とかそういうものにつながっていかないのではないか。こういったところをもう少し工夫してく必要もあるし、まさに、半分遊び感覚というようなイベントを通じた取組みというような、そういう工夫が必要なのではないかという気はしますけどね。それは一つの例ですが、いろいろ課題があると思います。他にありますでしょうか。
桜田委員	生徒の数が減っているので、道立での維持管理が難しくなっても、町立高校として是非やっていただきたい。今町民が目にするのは登下校の様子しかわからなくて、印象が悪いけど、でもボランティア活動たくさんしているので、そういう様子がわかると印象がかわるのかなと思っています。
菊地委員	今、上川の子ども達が少なくなってるのですけど、地元の人が、やっぱりすごく愛せる高校でないと他からもきっと来ないと思うのですよね。それで、今の子ども達のお母さん、中学生とか小学生とかが高校受験するお母さん達にも、上高、意外と上高の中のことの良いことって、まあ、地域のボランティアとかそういうことがある人たちは分かると思うのですけど、そういう接しない方たちはきっと、上川高校って良い所も、うちの子どもが行ってて私は有ると思ったので、そういう事が結構分からない人もいるんじゃないかなと私思うのですけどね。 ですから、できれば地元の人が、やっぱりある程度はいってもらった方が、高校としては。それでも仮なのですけど、そのことによって、その子ども達が「うちはもう町にもこんなに良い高校、こんなに良いんだ」っていう発信源ができる場にもなるのではないかなと思うので、なるべく町民の方に喜んで入ってもらえるような、そして、親御さんたちにも、そういう場があっていろいろ上川高校の良い所を発信する、聞いてもらえる場もあった方が良いのかなということがひとつと。 それから、よそから来た人、やっぱりイメージがすごく良くないって、やっぱり知らない人はそう思うので、小樽商大とも連携とったりとかって、今の段階では働いてる人が小樽商大の授業を受けれるとかっていう、そういうふうに私聞いたのですけ

	ど、それが例えば高校生にも受けるチャンスが、チャンスと言うか、その講義を聞けたり、その授業を聞けたりという、そして、また小樽商大に上高から行けるっていう期待があるっていうことがあったりとか、そういうこともこれからあると、また上高も違ったりするのかなと思ってます。私が言うことではないのですけど。
町長	そうなんですよね。それは、全般的に町といろんな所と連携協定を結んでいる。今言われたように、小樽商大との件も、すぐそういうようになるのは難しいかもしれない、今までの経過もありますし。だから、そういう事ではなく、そこと結びつく事によって、お互いの工夫をし合いながら、ここ上川に高等教育に、形はいろいろあるだろうけどそこに触れることができる、知ることができる、それだけも随分違うし、ましてや上川のこの町のどこかの企業に勤めながら、場合によってはこの小樽商大に追加枠を選べるような単位を選べるようなそういう事も考えられるということで、どうやってやったら良いかっていうのは、これからですからね。そういう仕組みが出来るということで随分違うし、それが発展して上川高校から小樽商大へと、こういう流れが１人でも２人でも出てくれば、それは物凄く高校にとって、町にとっても良い刺激になるし励みになる。そういう事だと思うのです。今結んでいる連携協定というのは。そういう可能性にチャレンジを入れてるのが今回の包括連携協定です。ましてや地元の企業やそういう子ども達を、あるいは勤めながら単位を取るための、そういう経費なんかを是非、支援してくれる地元の企業がこの協定に加わっていただいて、そういう動きも出てこようとしています。非常に大きな動きだと思うのですよね。
菊地委員	やっぱり勉強も、聞いたら旭川の高校にも、ちょっと上高は教科書も違うし、あれも違うこれも違うんだって話聞いたのですけど、それでも、もし、もうちょっと勉強がしたいとかっていう子には、そういう道もあり、就職したいのであれば就職したいなりのそういう道があるっていう道があるということが分かることによって、また上高に入る生徒さんたちの人数も、対する気持ちが違うんじゃないかなという。例えば旭川から来て、もしかしたら上の学校に行きたいという時に通いますよとかなると、また旭川に帰って通うっていう、上高からまた旭川に行ってまた通ってをするとかというよりも、例えば上川の高校に来て、上川で塾じゃないですけど「その後も勉強したい人はそういう進路がありますよ。」とか、「インターネットでちょっと高等な授業が受けられますよ」とか何とかっていう、そういうのがあるとそれも一つの魅力だと思うし、「仕事がしたいと思うんです。専門知識が受けたい。」とか、「これの専門知識の所に行きたい。」っていうそういうものを上高で、例えばそういうことも授業と別に受けられるっていうことがあると、またちょっと違うのかなと思ったり、いろんな道が開けてくるのかなと思って子ども達が上高でもいろんな所に行けるんだよ、支援があるんだよっていうことが分かれば、子ども達が率先して来てくれる高校になってくれるとありがたいなと思うのですけど。
町　長	そうですね。まさに安藤委員さん言ったように、基本は基本。それをもっと今言われたように、このままともすれば高等教育に触れる、あるいは学ぶという、結構やっぱりしなかったと思うんですよ。それは経済的な問題があったり、自己都合もいろいろあるでしょう、家庭の事情もあったり、いろいろだと思うのです。そういったものを取除けば、選択肢を少しでも広げられるようなそういうことを考えていく必要がある。それ自体が上川高校の魅力だとか、ここでの授業に力が入っていく。そういう具合につながる。時間がかかるかもしれないけれども、今の連携協定をそういう形で活

	かしていきたいなというふうに思います。前にも話したかもしれませんけども、旭川のある場所で、どっかのお母さんが言いましたね、「上川町長さんですか。」「そうですよ。」って言って、「私、実は子どもが旭川から上川に通ってたんですけど本当に良い学校でした、上川高校。上川高校に通わせて本当に良かったと思ってます。」と、時間が無かったので、もっと深く聞きたかったんですけど、何が良かったのか本当はもっと深く聞きたかったんですよね。そういう人も少なくなくいるんだということですよね。すごく嬉しい思いをですね、そういう面も一応持っているのだなと。もちろんやっていますよ。ボランティアだけじゃなくて、素晴らしい景観もある中で、やっぱり町をきれいにしようとか、ネイチャーガイドなんていうのは本当に素晴らしい活動ですよね。あのことによって得るものはやっぱり子ども達にとって、物凄いためになるでしょう。来客だってこれから必要になるでしょうね。そういうルートはやっぱりつくらないといけないということですね。
谷越委員	自分の子供が在学中ＰＴＡやっていたころは、学校の授業でやる教科書が不十分だった。上を目指す人には、習ってないようなテーマがでるそういう状況はやっぱりない。上を考えている子ども達は先生たちに相談して、先生たちがそういう子たちの就学に合わせた教材を用意して、それで自分たちも将来に必要な知識を身に付けた。上高は、割と距離が近い小規模学校なので、先生と子ども達の距離がすごく近いので、、先生たちと一生懸命なのですごく良い。そういったところが非常に自分たちの子どもにとってありがたかったなっていうのが正直な思いですけど。先生にマンツーマンで教えてもらって。ただ、そういったことは、ＰＴＡさん方は知っているのですよね。そういうのって、
菊地委員	高校に入ったお母さん達を、これから入るお母さん達が、そういう事が分かっていないという。うちの子と同級生なのですけど、うちも最初から、こういう所に学校側でこういう事で行けるよって言ってくれた特に、「行く気でやるんならちゃんと指導してあげるよ。」って、ずっとマンツーマンじゃないですけど、学校終わった後に、「こうしたら良いんじゃない、ああしたら良いんじゃない。」て先生がすごく良くしてくれて、私、そういう所の良さって、それでまた良い所すごくいっぱいあって、そこの学校に入ると良い所も見えるのですけど、学校に入らないとほかのＰＴＡはその良い所が見えなかったんじゃないかなと思いますね。
谷越委員	また、全道大会で、ＰＴＡさんたち集まって、お互いに自分たちの環境、お互いに自分たちの学校を自慢しあって。そこそこで特色があったりして、やっぱり物理的な部分で自慢している学校もあれば、小規模の特有の先生と生徒がすごく近くて、そういった所を先生以外の親御さんたちにお話して、やはり皆さん「や～、上川高校良いですね。」と言ってくれるのです。それで、実際にお母さんたちに「実は上川高校に進めたんだけども、ちょっと遠いからって、うちの子は旭川に選んだので、実は上川高校に行かせたかったんだ。」っていうような。そういった中で、駅はあるのですけど、さっき言ったように、やはり町外の親御さん方にも、「うちの息子を上高に行かせたからこう出来たんだ。」っていうふうにお話しいただきました。そういったことを何かこう、小さな宝箱にしまい込んでいて、表に開かれないというのが、ずっと今まで来てるなかで一部しか知られていない。それが、非常にもったいなと思っています。

町　長	そうですよね。先ほどのお母さんたちの話をもう少し深く聞きたかったと思いますけれども、そういう事ですね。先生との信頼関係って、こういう地域だからこそ。それは子どもの成長にとってものすごく良いと思いますからね。あと、魅力向上もそうやってつながっていくということだと思いますね。小さい頃やっぱり先生との距離が本当に近かったので、ある意味マンツーマンみたいな形でいろいろ指導を受けたし、影響も受けたのだと思いますよね。残念ながら、今の教育というのは、それが許されないような状態で、公平感だとか、いろんなややこしい問題もあってね。
谷越委員	学校祭は、卒業した後に隣の学校祭に出演してたそういう空気ですよね。ものすごい興奮して、先生たちとか地元の人たち、その後親睦会みたいのをやってたという話をして、そんな入学時代のそこが余裕なかったとか、３年間こんなに変わったんだという、そこの素晴らしさというのは、すごく思うのです。３年間どんな事があったかという、そこですよね。
町　長	話が飛んじゃうけれども、いじめ問題も、こういう対応というのもそういった所がもう少し入ったら、ちょっと違うのかなっていう。それはすごくありがたいこと、そんな感じもします。やっぱり子ども達が、先生から、最高の最大の影響力を受けているわけですから。先生ですから、間違いなく。そことの関係というのがもちろん大事だと思うし、学校もそうだし人間形成もそうだし、あるいは、いじめ等々の問題についてもそうだし、今の先生はみんな駄目だと言われてるのだけど、なかなかやりにくい時代になってしまってるかなって気がする。
安藤委員	あと、本当に上川高校の魅力化ですども、もう一つ、安心・安全をポイントとしたらどうかなというふうに、ちょっとまちづくりが関係しているので、既に今、いろんな理想が自分の中にありますけど、それ全部まちづくりと絡めると、なかなかその辺の線引きが難しいのですけど、一つ出来ることとしては、安全だということを担当に言ってもらえるかなと、そこをアピールできないかなということ。例えば、旭川市とかは高校の周りの街灯というのがちょっと物騒な感じだなということも聞きますし、不審者も結構出ると、そういうような状況も聞きますけど、上川高校、上川に行けば、とても明るくそして通学も安心してできるような雰囲気というようなことが、旭川市内にはできない一つのポイントということで、是非、アピールできるぐらい良いものををできればなというふうに通学に思いますね。そういうこともできる。特に、安心・安全の方の親がそこをポイントとし始めてるので。
町　長	いろんな意味で安全というのは重要課題ですよね。最重要課題ですから、いろんな面で学校の安全・安心ていうことは。
安藤委員	なんか駅を降りた瞬間、そういう自然の豊かさを実感できるような雰囲気ができたらなと。なんか駅でね。やっぱり駅は、上川の場合だったら駅なのかなという感じしますけどね。ＪＲほとんど通らないから、よく分からないですけどね。でも、駅に来たら雰囲気が良いとか、今もいろんな素敵なそういう広場もあったりしますから、ちょっとここと上川高校までがゴールデンルートとなればと思います。
町長	駅はこれは玄関口になるのは間違いないじゃないですか。まず駅に来るわけだから、そこのイメージというのは大事ですよね。

	私も３月に初めて来たとき、他の町から来て、線路沿いに来た時に、すごい雪で。非常に上川にとってすごい町だなと思ったのですよ。９割が雪でもう、全然覆われてしまって他に建物が見えないぐらいの幸ですよね。「うわっ、こういう町か。」ちょっと暗くなりましたよ、気持ちは。ある意味、イメージというのは、物凄く大事ですね。だから、駅前の問題じゃないけど、そういうようなことでまちづくりを考えてかなければなりませんね。陸橋に電気付けたじゃないですか。住民よりいろいろ批判もあったみたいです。「余計な電気代使うな」とか「そこに電気代使うなら他に使え」とか、別にあれは電気代かかっているわけではないのですけどね。高規格道路が出来ちゃって、そして国道挟んで町の中に入ってくる、ある意味では玄関口ですから、そこは。でもあれが無かったら町なんて全く見えないですからね。せめて玄関口らしいことをやろうということで、せめてああいう電気ぐらいは付けてねっていう要望に対する結果で、こういうあれでやったら良いんじゃないかと、けっこう批判はありましたけどね。今やって良かったですよ。真っ直ぐあそこ入ってきて神社ですから、本当にイメージというところをＰＲするのは、すごく大事だと思いますからね。やっぱり、外からどうこの町が見られるのかってもの凄く大事な事で、上川なんかやっているなと思われるのは大事だし、そういう、こう見方されているのは間違いないんですよ。隣の町なんかからも羨ましがられている。決して我々そんなこと考えたことないけれど、少なくてもそういう状況にはなってきてるのではないか。競争ですよ、町同士が。表面では仲良くやろうって感じですけど。だから、うちの職員にも、言っているのですが職員全体共有してほしいなと、それに時間もかけましたしね。やっぱり、なかなか定住人口を増やすって、かなりな難しいですよ。自然増加の数見たって、その差をまとめてく段階考えたら、とてもとても増やすなんて難しいですね。人いなくなるわけじゃないですから、一定のところで止まる訳ですから、それに見合う人口がですね。この疲弊した状況から脱して、そして、もっともっと町を活性化して、皆さんが夢や希望を持てるような、小さな町であっても。そういうようなまちづくりの対応を今もの凄くやっていて、これは意味があると思ってるのです。こういうツーリズム会議とか上場会議だとかメディア関係と、相当幅広い連携取ってやってるのです。そのかたちについてやってきているのも実はあるけれど、こういうひとつかたちをしていきたいなと、情報というのももらったら選別していろいろやっていく。その見えないものがたくさん有るということ、それはすごく可能性があるのですよね。間違いなくそういう動きに乗じて人と企業とこの町で繋がっていっていることは間違いないです。そういうことを理解して、定住人口というもの、もしくは関係人口ということになると。これをどうやって増やすかってことをこの町で考えていく、間違いなく活性化につながっていくと思う。そういう見えない部分の可能性を町として、何ができるだろうか、どういう具合になってくのかなという、まさに夢や希望ですよ。そういうことに通じるのだというふうに考えます。私は信念を持って真っすぐいきたいなというふうに思ってます。これが全てじゃないですけど、活性化に向けての一つの策かなと思いますね。ちょっと、本題から外れましたけど。従来の企業誘致みたいに町が必ず金を出して、企業誘致やったって、町に決してプラスにはならないですからね。そうじゃなくて、今やっている連携協定、大概はこっちから仕掛けてるというのでなく、向こうからこの町に関心を持ってもらって、「あの町で何かやれないか。あの町で連携を作りたいな。」という、こういう動きばかりですから、全部。全部と言っていいですね。それだけ企業側も「何かこの町で形にしなくちゃ、何か残さなくちゃ。」という、そういう構えでいますから、楽しみです。ちょっと脱線しましたけど。 他に何かありましたら。

	特にないようでしたら、持ち帰っていただいて、いろいろと目を通していただいて、何かの機会とかあれば、後でもいいですから意見出していただきたいと思います。 だいたい１時間半ぐらいかかってますので、この辺でいいですか、この話。よろしいですか。特に、その他の問題でございましたら、この機会ですから。
安藤委員	その中等学校、通信制の中学校（インフィニティ）ですね。ああいうのもやっぱり、一つ大きいのは山岳地域であるということも、本当に100年記念で、町の100年記念のシンポジウムということで、中学生が自然を考える町というのも、まちづくりにしたら良いのではないかと提案されているのを聞いて、私、非常に感銘したので、自然、考える町という、中学校でよくそんな事考えつくなと思いましたけども。でも、そうやってやっぱり、その質問みたいの素晴らしいこと、やがてはそういう本当にそこを中心とした、まちづくりをしたらよろしいのですけども。もう常に、そういう感じで、今日産業経済課の平松さんと中山について話して、いろいろやっぱりそういう考え方聞くと、いろんな考え方によって、また、まちづくりというか山づくりというか、変わっていくという意味で、本当にそういう町の文化も、本当にまた、自然の考え方が進んでいるということで、まちづくりをしてもらいたいなと思います。
町　長	森林部分について改めてこのまちづくりの重要施策として、森林部分をもう１回、本当に復興させようじゃないかと、積極的に彼らもやるわけです。新しい取り組みとして進めてますから、これも面白いです。教育にも係わりますし、今言われたように、すごくこだわり持ったまちづくりやらないとダメだなっていう、改めて今、感じてますよね。大きな話としては中学生がここの大雪山なり石狩川だったり、こういう自然に恵まれた、これをどうやってまちづくりの中に活かしていくかという、ここにこだわりを求めてるっていう、今、かたちですよね。それに係わる、今、事業をいろいろと進めてきていますが、インフィニティがここでやろうとしたというような、連携協定いろいろな動きがあるけれど、それにに乗じて、別な効力出てるのですよね。あるいは、企業同士が連携をとるという動きが出てきたり、そういうことで、「上川で一緒に何かやろうや。」みたいな話になってきたりですね、インフィニティの大谷学長さんていう人は、この大雪山系の事は我々以上に知り尽くしている人なんですよ。もの凄い自然を好きな人で、それで、ずっと旭川から美瑛・富良野・東川、ずっとこの辺一帯ですね、大雪山に係わりのある町をずっとこう、どこで自分の中等学校を開設しようかと、ずっと選んでたらしいのですね。それで、迷ってたのだけど、決め手になったのがでコロンビアとの連携協定なんですけれども、この大谷さんもコロンビアとちょっと繋がりがあるらしくて、上川町がコロンビアと連携協定やったんだ、それが決め手になった。上川でやろうという決め手だったらしいですね。だから、そういう動きになってくるんだなという、私の知らないところでですよね。まちづくりにこだわることは、どうしても重要なことかなというふうに思います。
菊地委員	毎週ＣＭ見ていて、あんな人もいるんだとか、こういう場所もあるんだ、行っても分からない所もあったり、何かすごく上川の良さが同じ町民でも分からない所があったのが分かって、こういう事も人に言えるんだなとか、ああいう事も言えるんだなとか、いろんな事を知るＣＭだったんじゃないかなと。私自身も思いました。
町長	町は町でやっぱりああいった所とか繋がって、すごく大きな影響を持つし、こだわりのまちづくりのコンセプトに合致したものだと思うし、企業側がじゃあどうかって

	いったら、向こう側も行政側と協定結んだの初めてなのですよ。コロンビアも。何が決め手になったかというと、コロンビアはやっぱり社長がイタリア人なのですよね。それで、すごく上川の状況自体が、自分のイタリアの故郷とすごく似てるのですね。あれだけのブランド力を持った企業ですけど、さらに、ここの上川大雪山系の、こういう自然の中で企業としてやってくって、そういうのをＰＲしながら、もっとブランド力を、そのことによって高めたいという。彼が私に言うのは、「町長、決して町だけでない、ウインウインの関係だから、さらに第２弾、第３弾を進めたい。」という話、この間されてました。ともかく、この社長もショップもけっこう東京の方に持ってますけども、コンセプトを自分で持っていて、「これだったら足りない。このエリアにもう一つ構えたいんだ。」という話です。まちづくりそのものだよなと思ったのは、なんたって、ああいう企業でも。ここで諦めたりしちゃったら、そこには後退しかないと。だから、そうじゃなくて、ちょっとしたことでも良いから、新しいものに挑戦ですね、時代にマッチしたものにチャレンジしてくとか。ちょっとしたそういう挑戦をしていくということが、今のこの状況を維持もできるし、将来に向けて発展に間違いなくつながる。まちづくりそのものだろうと思いましたね。 今日は、ちょっと脱線した話ばかりで申し訳ないですけど、町の動きとして、知ってもらえればなと思います。 ちょうど１時間半ですけど、どうしましょう。 よろしいですか、終わらせていただいて。 参考意見として、学校の教育問題に生かしていただきたいと考えております。それでは課長よろしくお願いしたいと思います。
西木課長	皆さん、大変ありがとうございました。 これで、まだまだ上川高校の魅力化に引き続き頑張っていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。 それでは、以上をもちまして、令和３年度第１回目の上川町総合教育会議を終了させていただきます。 どうもありがとうございました。

議事録署名委員　安藤智昭

議事録署名委員　谷越一彦